ランピースキン病

2026年 11月

福岡県、長崎県、鹿児島県で発生が確認されました

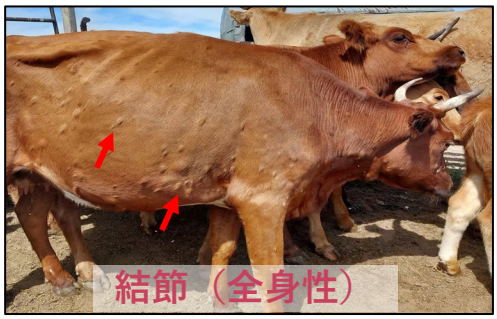
Point

ランピースキン病ウイルスによる牛の伝染病。
主に、蚊、ハエ、ダニの媒介による機械的伝播や、感染した牛の移動により感染が拡大します。感染した牛は、全身の皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の減少などの症状を呈し、生産性に影響を及ぼします。

ランピースキン病を疑う症状

発熱、鼻汁
皮膚の結節
泌乳量の低下
リンパ節の腫大

疑わしい場合は
直ちに連絡！







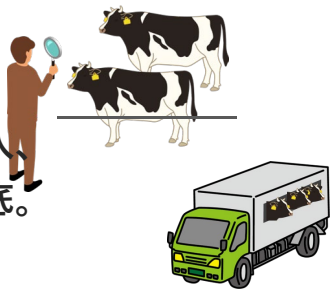


写真提供：モンゴル国中央獣医学研究所
（State Central Veterinary Laboratory in Mongolia）

ランピースキン病の侵入防止対策

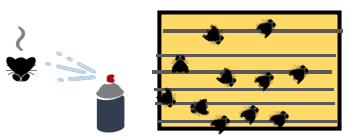
01 毎日の健康観察

早期発見・早期連絡が重要。
疑わしい牛は隔離し、牛の導入、出荷、移動時は健康観察を徹底。



02 害虫の駆除

殺殺虫剤の散布とともに粘着シート等も活用



03 清掃・消毒

衛生管理区域内の整理整頓を徹底し、飼養管理に使用する器具や畜舎等の施設は清掃と消毒を実施。

ランピースキン病は牛、水牛の病気です。人に感染することはありません。

ランピースキン病が発生したら

発生農場の対応

患畜・疑似患畜が確認された農場

❶患畜等の速やかな隔離と殺処分

患畜又は疑似患畜は速やかに隔離し、原則14日以内に殺処分します。

❷畜舎の清掃・消毒

畜舎の清掃・消毒を行うとともに、吸血昆虫による感染拡大を防止するため、殺虫剤を散布します。

❸健康観察と移動制限

患畜の判定日から28日間、健康観察を徹底します。
また、すべての患畜等の殺処分完了から28日目より後に実施する検査で陰性が確認されるまでの間、他の農場や市場等への移動を制限します。

周辺農場の対応

半径5km圏内（状況により20kmまで拡大）

❶緊急ワクチン接種

原則、半径5km圏内のすべての牛等について、ワクチンを接種します。
（20日以内にと畜場に出荷する牛等を除く）

❷移動制限

ワクチン接種完了後21日を経過するまで、他の農場や市場等への移動を制限します。

❸ベクター防除と車両消毒

吸血昆虫による感染拡大を防止するための殺虫剤の散布や、農場へ出入りする車両の消毒等を徹底します。

異状を発見した場合は 管轄の家畜保健衛生所へ ご連絡ください	北部家畜保健衛生所　0980-52-2939 中央家畜保健衛生所　098-945-2297 宮古家畜保健衛生所　0980-72-3321 八重山家畜保健衛生所　0980-84-4111